

時流

「第 16 回 WFOT 大会 2014」 Team Japan 出航

— ラーメン 1 杯とコーヒー 1 杯で国際交流・国際貢献 —

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻

(「第 16 回 WFOT 大会 2014」副大会長，大会実行委員長)

山根 寛

2011 年 4 月発行

作業療法 (第 30 巻第 2 号) 抜刷

時 流

「第16回 WFOT 大会 2014」 Team Japan 出航

—ラーメン1杯とコーヒー1杯で国際交流・国際貢献—

山根 寛*

要旨: 2008年9月、スロベニアで行われた WFOT 代表者会議で2014年の大会を日本で行うことが決まり、JAOT 国際担当副会長を執行委員長として大会準備委員会が発足した。学会時の国際シンポジウム開催などアジア初の大会に向け準備を進めてきたが、2010年チリ大会時に WFOT 大会は WFOT と開催国との協働で運営することが決定され、大会準備委員会は Team Japan の JAOT 組織委員会として再編された。2月には WFOT と JAOT の第1回合同会議が開かれ、Team Japan が船出した。千葉での代表者会議、横浜での大会開催と、首都圏4士会の協力を得て JAOT の総力を結集した一大行事になる。その経緯を紹介する。

Key Words: 国際交流, 国際貢献, WFOT, (国際大会)

はじめに

“16th WFOT Congress, 2014” Team Japan has sailed: Let's exchange and contribute internationally with “one Chinese noodle and one cup of coffee”

* 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻(「第16回 WFOT 大会 2014」副大会長, 大会実行委員長) Hiroshi Yamane, OTR, PhD: Human Health Science, Graduate School of Medicine, Kyoto University (Co-convenor and Executive Chairman of “16th WFOT Congress, 2014”)

*1 WFOT

WFOT (the World Federation of Occupational Therapists) は、1952年に設立され、世界中の国と地域を代表する作業療法士の協会によって構成される国際組織である。現在、正会員・準会員・賛助会員を合わせ74カ国の国と団体が WFOT に加盟している。WFOT は、教育・研究、国際協力、広報・発展、基準・資質の4つの分野で構成され、執行部は会長、副会長、財務担当副会長、事務局長、委員会委員長 (program coordinator: PCo) からなる。いずれも任期4年、再任は2年1回まで、事務局長は再任回数に制約はない。これまで法人 (NGO) としての法的な登録をもたない任意団体であったが、2009年11月にスイスで法人登録を完了した。

2008年9月、43カ国 (委任状6カ国) の総勢65名が出席してスロベニアの首都リュブリャナで開催された第28回 WFOT 代表者会議^{*1, *2}で、2014年の第16回 WFOT 大会が日本で行われることが決まった。アジアで初めての WFOT 大会^{*3}である。日本はもちろんアジア諸国の作業療法士にとっても意義深い決定で

*2 WFOT 代表者会議

WFOT 代表者会議 (WFOT council meeting) は、2年に1回、WFOT 加盟国の代表が集まり、WFOT 設立の趣旨に基づいて国際的な作業療法の発展に向けた論議がなされる会議である。議案は、作業療法の普及、啓発、実践や理論、教育など作業療法の質の維持・向上、国際学会の企画や出版物、対外的な情報の提供などの多岐にわたり、5日間の日程で行われる。2014年の代表者会議は、第16回 WFOT 大会に先立ち千葉で開催の予定である。

*3 WFOT 大会

WFOT 大会 (WFOT Congress) は4年に1度開催される。

表1 「第16回 WFOT 大会2014」に向けての経緯

年 月	経 緯
2000年5月	第24回 WFOT 代表者会議（日本）：第14回 WFOT 大会2006 マレーシア開催決定
2004年4月	第26回 WFOT 代表者会議（南アフリカ）：第15回 WFOT 大会2010 チリ開催決定 事情により第14回 WFOT 大会2006はオーストラリアに変更
2007年6月	JAOT 総会決定を受け、特設委員会「WFOT 世界会議招致委員会」設置
2008年6月	第42回日本作業療法学会（長崎）：WFOT シンポジウム開催
9月	第28回 WFOT 代表者会議（スロベニア）：第16回 WFOT 大会2014 日本開催決定
2009年2月	「WFOT 世界大会準備・推進プロジェクト」第1回会議
5月	「WFOT 世界大会準備・推進プロジェクト」第2回会議
6月	第43回日本作業療法学会（福島）：国際シンポジウム開催 情報収集のため WFOT 役員と初の打ち合わせ
7月	「WFOT 世界大会準備・推進プロジェクト」第3回会議
9月	「WFOT 世界大会準備・推進プロジェクト」第4回会議 →（移行）「WFOT 世界大会実行委員会（仮称）」第1回会議
2010年2月	「WFOT 世界大会実行委員会」第2回会議
5月	第29回 WFOT 代表者会議（チリ）：経過説明 第15回 WFOT 大会2010（チリ）：Team Japan としての協働運営が正式決定
6月	第44回日本作業療法学会（宮城）：WFOT 国際シンポジウム開催
10月	Team Japan 覚書に調印
11月	暫定学術委員会、第1回「Team Japan 国内組織委員会」開催
2011年2月	Team Japan 第1回合同会議開催
2011年2月現在	

あり、日本作業療法士協会（以下、JAOT）と会員が総力をあげて取り組まなければならない大事業である。

第16回の WFOT 大会から、WFOT と開催国との協働運営で行われることがチリ大会で確認され、その運営プロジェクトとして Team Japan が組織された。大会はバイリンガルで行われ、無理と言われていた国内学会を兼ねることも認められた。これにより、例年の作業療法学会での発表と同じ気持ちで国際学会の発表が可能になった。言語の壁を越え、広く視野を広げる絶好の機会になるものと思われる。

会員各位が「第16回 WFOT 大会2014」の意義を理解され、積極的に参加されるよう、WFOT 大会招致が決定するまでと決定後の経緯、そして2011年2月段階での準備状況などを報告する。

招致に至る経緯

アジアで初めて WFOT 大会が日本で開催されるに至った経緯を簡単に振り返ってみると、表1のようになる。思い起こせば2000年に札幌で行われた第24回 WFOT 代表者会議で、当時 WFOT 副会長であった故 佐藤剛氏の「アジアの文化と価値観に根付いた作業療法の発信」という願いを組むかのように、2006年の世界大会はマレーシア開催に決定した。しかし、諸般の事情によりマレーシアでの大会はオーストラリアに変更され、アジア初の WFOT 大会は夢となった。

2004年に南アフリカで行われた第26回の代表者会議でも日韓共同開催でという話も出たようであるが、当時は JAOT にそうした心の準備がなく、2010年の大会はチリ開催に決定した。その後、日本で WFOT 大会を開催しようという気運が高まり、2007年の JAOT 総会の決定

を受け、特設委員会として「WFOT 世界会議招致委員会」が奈良進弘氏を委員長として設置され、招致活動が開始された¹⁾。

そして2008年6月、長崎で行われた第42回日本作業療法学会では、当時のWFOT 会長 Sinclair 氏や副会長 Brintnell 氏らを招いて「WFOT シンポジウム」を開催するなど、積極的な招致活動が行われた。そうした約1年にわたる招致活動を経て、2008年9月にスロベニアで行われた第28回の代表者会議では、杉原元会長を始めとする招致委員が開催計画のプレゼンテーションを行い、投票の結果、2014年の第16回WFOT 大会の日本開催が決定した。国土交通省、日本政府観光局（独立行政法人国際観光振興機構）、横浜市、財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー、パシフィコ横浜による連携協力体制が功を奏した。

招致後1年間の経緯

2008年9月に日本への招致が決まり、その翌月のJAOT 理事会で杉原元会長より招致決定と国際担当の副会長が実行委員長という報告があった。そうして手探りの準備が始まった。招致に至る経緯は機関誌「作業療法」28巻1号の時流¹⁾に、招致後の経緯に関しては、第337号の「協会ニュース」から毎月連載記事が掲載されているので参照されたい。

1. 賽は投げられた

準備を始めなければならないが日本で初めてのWFOT 大会であり、何をどのような形で行うのか見当がつかない。しかし、すでに「賽は投げられた (Jacta alea est)」のである。とにかく準備委員会を立ち上げて検討を始めようということになり、2008年度第6回の理事会で、「WFOT 世界大会準備・推進プロジェクト」（当時の名称）を組織し、実行委員会設立までの準備を行うことが承認された。それを受けて2009年の年明けに、関連士会（神奈川、東京、埼玉、千葉）に協力を依頼し、2009年2月に第1回WFOT 世界大会準備・推進プロジェクト会議がもたれることになった。

2. WFOT 世界大会準備・推進プロジェクト

その第1回準備委員会で、①世界大会と国内学会を同時開催とする、②2009年度改選後早期に実行委員会を組織し業務を移行する、③JAOT 事務局に国際担当事務員をおきJAOT の窓口とする、④WFOT 大会長はJAOT 会長とし国内学会会長を兼務する、⑤2009年度より2013年度まで国内学会に国際セッションを設け、毎年各国より2、3名を招聘しシンポジウムを開催する（国際シンポジウムは、JAOT 主導プログラムとし、国際部などを中心に運営の予定）、といった大枠の方向性が確認された。その後この準備委員会は、5、7、9月と3回開かれ、4回目の9月に準備委員会は「WFOT 世界大会実行委員会」に移行した。

3. WFOT 役員と初会議

2009年の第43回日本作業療法学会（福島）で、WFOT 副会長 Anne Carswell 氏、事務局長 Marilyn Pattison 氏、韓国作業治療士協会会長 Min Ye Jung 氏の3名を迎えて、大会招致決定後第1回の国際シンポジウムがもたれた。このとき、世界大会に関する情報を得るため、シンポジストとして招いた2名のWFOT 役員と打ち合わせを行った。

WFOT は、組織体制も社会的背景も異なる70カ国あまりの国の代表者からなる意見を集約しながら、立候補による少数の執行部でさまざまな基準を決定するために多くの基準が決められてはいるが、明確でないものや暫定的と思えるものも多い。特に財政的に不安定なWFOT にとって、世界大会の運営のあり方は死活問題であり、運営マニュアルは毎回のように変更が加えられている。

そうした状況下、初めての打ち合わせで得られた情報は以下のようなものであった。

- ・スウェーデンの大会までは運営を開催国に一任していたが、WFOT と開催国の協働運営を検討しており、詳細はチリ大会で決定する。
- ・演題抄録の査読システムは契約しているオンラインシステム（Oxford システム）がある。
- ・学会8ヵ月ほど前あたりから、スカイプで毎

月国際会議を行うことも検討中。

- ・世界大会と国内学会の同時開催はドイツで不評だった（国内学会をドイツ語だけで行った）ので、同時開催はできない。
- ・参加者は、スウェーデンで3,200人、オーストラリアで3,000人。
- ・スウェーデン、カナダは失敗だった（エンターテイナーや食費に予算がかさんだ上、通訳をつけなかったため参加者が少なかった）ので、固定予算の削減が必要。
- ・チリ大会の演題募集は、英語、英語とスペイン語、スペイン語（英訳要）で行う。
- ・日英併記の大会運営に関する Memorandum of Understanding（合意書）を作成する。
- ・代表者会議参加者の登録費は WFOT が払う。
- ・大会は運営マニュアルによるが、チリ大会終了後マニュアルを修正する。

4. WFOT 世界大会実行委員会（仮称）

WFOT との協働運営と聞かされるが、Memorandum of Understanding（合意書）が交わされておらず、運営マニュアルもチリ大会後に修正されるとのことなので、とりあえず予定通り準備委員会を「WFOT 世界大会実行委員会」に移行した。これが、今の「Team Japan 国内組織委員会」の前身にあたる。移行と同時に2009年9月に第1回会議を開き、チリ大会へのツアー企画やプロモーション、国内への広報の仕方などの検討が始められた。

こうした一連の活動が、日本の国際学術交流としても大きく期待され、「平成21年度日本政府観光局（JNTO）国際会議誘致・開催貢献賞」を受賞した²⁾。作業療法の社会的認知を高め、日本の作業療法士の心と感性を技術として世界に発信する、またとないチャンスが到来したという思いであった。

チリ大会でのプロモーションに向けてロゴマーク（図1）も公募で決まり、大会テーマも“Wisdom of OT from Asia to the world”（「作業療法の知をアジアから世界へ」（仮））とされた。WFOT 世界大会実行委員会（仮称）第2回会議で、会場となるパシフィコ横浜、横浜コ



図1 ロゴマーク

ンベンションビューロー、運営を委託することになったコンベンション・リンケージと対面し、チリ大会でのプロモーションに向けて準備が始まった。

チリ大会とその後

約2,000名収容のメイン会場が人で埋まり、ラテン音楽の哀愁を秘めた陽気なリズムで華やかに幕を開けた第15回 WFOT Congress チリ大会。2014年に日本で開かれる大会への関心は高く、日本のブースは常に人だかりだった。横浜のはっぴを着た記念撮影がいつの間にか始まり、自然発生的に始まった折り紙体験コーナーとともに大会中、人の訪れが途切れることはなかった（図2、図3）。

大会前の代表者会議³⁾での確認、そして大会中に WFOT 役員との2回目の打ち合わせを行い、2014年の大会は日本作業療法学会を兼ね、大会の名称にも併記されることが了承された。また、主催国の言語と英語のバイリンガル方式で行うということも正式に決まった。

しかし、その後も問い合わせの度に二転三転する内容や遅延する返答に振り回されながら、チリ大会後に修正するとされた運営マニュアルも届かないまま、従来のマニュアルに沿っての企画作業が続いた。そうして2010年10月末になって、Memorandum of Understanding（合意書）に WFOT 会長と JAOT 会長のサインが4ヵ月遅れでなされ、やっと協働運営プロジェクト Team Japan が生まれた。



図2 チリ大会ブース（折り紙アピール好評）



図3 Congress dinnerでWFOT事務局長の
Marilyn Pattison氏と

Team Japan 出航!!

この報告を目にされる頃には、第1回のTeam Japan 合同会議が終わっており、審議事項で残されている大会テーマの調整や参加費、査読システムなど、未調整の事項もほぼ見通しがついていることだろう。

1. ラーメン1杯とコーヒー1杯で

2006年のオーストラリアのシドニーで開催された大会参加費は、財政面の厳しい制約により当日払いで10万円を超えるという非常に高

い設定で、それがネックになり参加できなかった途上国の作業療法士もいて、結果的に参加者総数が2,000人ほどと低調だった。このような事情、および国内学会を兼ねるということを考えると、参加費用を抑え、寄付を募り、国内外からできるだけ多くの作業療法士が参加できるようにしたい。そのために、2010年1月より「ラーメン1杯とコーヒー1杯で国際交流・国際貢献」をキャッチフレーズに、ロゴマークのピンバッジ販売や寄付を呼びかけている（寄付口座：「ゆうちょ銀行」、口座番号：00110-1-585996、加入者名：第16回WFOT世界大会組織委員会）。

その呼びかけに、大先輩の作業療法士がJAOT事務局に來られ、「頑張りなさい」と10万円を寄付して行かれた。物心両面の暖かく力強い励ましであった。

2. 言葉の壁を越えて

国際学会は、共通のテーマを介して世界の作業療法士と語り合えるという点で大きな魅力があり、新たな交流が生まれるまたとないチャンスである。2014年の大会は日英のバイリンガルで行われる。言葉の壁を越えた交流をさらに広げるため、多くの翻訳・通訳ボランティアも募る。演題募集は2012年秋に始まり、応募締め切りが2013年4月、選考6月の予定である。JAOTの総力をあげて取り組み、日本の作業療法の発展とともに、あなたの新たな世界の広がり挑戦しましょう。

文 献

- 1) 奈良進弘：WFOT学会招致活動と第28回WFOT代表者会議。作業療法 28：4-8, 2009.
- 2) 作業療法士協会：平成21年度日本政府観光局（JNTO）国際会議誘致・開催貢献賞を受賞！。日本作業療法士協会ニュース 336：20, 2010.
- 3) 石橋英恵，富岡詔子：第29回世界作業療法士連盟代表者会議の報告。作業療法 29：562-567, 2010.